

全木連時報

10月25日(月曜日)
(第583号)〔毎月25日発行〕
平成18年(2006年)

発行所
社団法人 **全国木材組合連合会**
後藤隆一
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

JAS登録認定機関として登録なる

全国木材検査・研究協会

有限責任中間法人全国木材検査・研究協会(略称「全木検」、理事長「後藤隆一」全木連副会長)は、平成十八年九月八日付けでJAS法による登録認定機関として登録された。これにより、全木検は製造業者等事業者のJASの認定ほか関連する業務を行うこととなる。

全木検は、本紙既報のとおり本年三月一日施行の現行JAS法による新たな登録認定機関となるために設立された組織である。従来登録認定機関となってきた全木連検査部の組織では、登録要件を満たすことが難しいため、別組



9月15日「木づかい応援団」プロ野球マスターズリーグの大沢啓二議長は中川農林水産大臣を表敬し、ことしの10月の木づかい推進月間に向けての抱負を語った。写真は同席した庄司会長と固い握手を交わした大沢議長。

織を設立して、業務を引き継ぐこととしたものである。旧法による全木連の登録認定機関としての地位は、新法の施行に伴い本年三月一日に失効している。このため、全木検の登録は四月を目途に手続を進めていたが、他産業分野を含め、全体的に登録に時間を要し、やや遅れてのスタートとなった。

同様に、現在認定を受けている事業者(旧法による認定事業者)は、新法への移行期間としての三年間、つまり平成二十一年二月末日までは資格は有効であるが、その後は、新法による認定を受けなければならない。全木検は、それらの認定と、新たに認定を申請する事業者の認定及び関連する業務とを行うこととなる。

目次
一 全木検が登録認定機関となる 木づかい応援団
二 違法伐採対策のホームページ開設 検査員研修会を開催 催し物を拝見
三 木材需給見直しを見直し 新聞僚に期待
四 新閣僚に期待
社報 景況調査

違法伐採対策のホームページ開設

違法伐採総合対策推進協議会(事務局・全木連)では、「合法木材ナビ」こと同協議会のホームページを開設した。広く関係者への情報提供と意見・質問の場にする。アドレスは次のとおり。

<http://www.goho-wood.jp>

ホームページでは、違法伐採問題についての概要、グリーン購入法と合法木材について、また、合法性証明のためのガイドライン等



催し物 木挽と道具展 拝見 フィトンチッドフォーラム

木材に関する催し物が多く開かれている。今回は、九月に行われた二件の事例を取材した。

一つは、「木挽とその道具展」。木材活用推進協議会に竹中工務店が協力して開催された。同協議会は、東京原木協同組合が日常の組合活

の紹介のほか、合法木材供給事業者の業界団体認定についての解説等、さまざまな情報を提供する。また、政府・自治体・企業の調達担当者の方へ、森林所有者・木材生産者の皆さんへ、木材輸入業者の皆さんへ、木材流通・製材・加工業者の皆さんへ、一般消費者の皆さんへ」というように関係者ごとにページを設け、それぞれの目的別に関連情報が取り出し易い構成になっている。

グリーン購入法が改正され、本年四月から、政府、独立行政法人等国の機関に納入する木材・木材製品に新たに合法性の証明が必要になった。ホームページでは、この流れに対応して、木材業界が始めた合法性の証明された木材・木材製品の供給システムに関する各種情報を、新たな情報を加えながら提供していく。

動とは別に、木材業界全般に役立つ活動を行おうという趣旨で設立した組織。また、竹中工務店は、東京の木材の中心地である江東区に東京本店が所在し、神戸に大工道具館を有していることは有名。これらが縁での開催であった。

東京では、八月から九月にかけて、竹中工務店の東京本店ギャラリーに大工道具館所蔵の木挽道具や木挽の達人・林以一氏の道具ならびに木挽の作品ともいえる銘木の盤を展示した。また、この期間中に三回のイベントとしてシンポジウム、林氏による木挽の実演等が行われた。

十月から十一月は、神戸の大工道具館に場所を移して行われる。

九月七日に行われた実演には、多くの見学者が集まり、定刻の前から人々が待ち受けるなか、木挽の解説とともに実演が始まった。大鋸(オガ)と呼ばれる半円型の幅の広い身の厚い鋸で丸太を水平に挽き進むうちに、深川木場の木遣りが披露され、木遣りの声が朗々と響く中、木を挽く音が重なり、一種幻想的な特別な世界を作り出していた。同じ製材作業でも、通常の機械挽きによる製材とは異なる何かが感じられた催し物であった。



もう一つは、「フィトンチッドフォーラム2006」。フィトンチッド

ド普及センターの主催で、九月六日に東京大学弥生講堂で開かれた。フィトンチッドの働きを専門の研究者が多方面から解説した。

講師と演題は、谷田貝光克氏(秋田県立大学木材高度加工研究所教授)「フィトンチッド、その成分と働き」、及川規氏(東北歴史博物館主任研究員)「収蔵庫内装材の揮発成分とその文化財への影響」、大平辰朗氏(森林総合研究所樹木抽出成分研究室長)「森林の香り、木の香りについて」、中村祥二氏(資生堂研究所香料顧問)「花の香りを楽しむ」。以上の四氏による講演が行われた。

谷田貝氏と大平氏の講演内容については、過去に同様の内容で本紙でも取り上げており、また、実際に他の機会に講演を聴き、報告

検査員研修会を開催

を読んだ木材関係者も多いと思われるが、今回特に興味深かったのは、及川氏による講演であった。文化財を収蔵する倉庫の内装材として、木材を使用する場合、材種によっては、文化財に化学的な変化を与える場合があるという研究報告であった。

具体的には、「ベイスギ」を使用した場合、収蔵物の金属と顔料の一部に影響があったということである。その原因としては、材の揮発成分中のヒノキチオールが主因と見られるということであった。

化学的な分析は専門家に任せるとして、材料選択の一つの目安に用途と揮発成分との関係とを考慮に入れる必要があるという意味で、木材業界にとっても参考となる講演であったと考えられる。



全木検は、認定業務にあたる検査員養成のため、九月二十八、二十九日の両日に、事務所所在地の永田町ビルで第一回の製材等検査員資格者研修会を開催した。

各県木連所属の資格取得希望者十六名が受講し、JAS法、JAS規格、品質管理の実際及び検査実務等の内容を学んだ。

受講者は資格を取得したうえで、認定工場制度における検査業務を行うこととなる。

全木検としては、登録認定機関としての初の研修事業となる。

(単位：千㎡)

木材(用材)の需給の実績と見通し

年次	需				要				供				給			
	総数	製材用	合板用	ハルブ・チップ用	その他用	総数	国産材		工場残材		丸太	製材	合単板	チップ	ハルブ	その他
							丸太	林地残材	丸太	丸太						
平成15年	87,191 (98.9)	34,766 (99.7)	12,810 (96.9)	7,951 36,979 (98.3)	2,636 (108.1)	87,191 (98.9)	16,155 (100.5)	143 (150.5)	7,951 (110.8)	14,398 (96.9)	7,897 (92.9)	24,337 (98.2)	8,022 (99.0)	2,294 (109.4)		
16年	89,799 (103.0)	35,041 (100.8)	13,976 (109.1)	7,682 37,981 (102.7)	2,802 (106.3)	89,799 (103.0)	16,434 (102.5)	121 (84.6)	7,682 (96.6)	14,468 (102.7)	8,587 (108.7)	25,112 (103.2)	8,292 (103.4)	2,456 (107.1)		
17年	88,857 (95.6)	32,901 (93.9)	12,586 (90.1)	7,974 37,608 (99.0)	2,763 (98.6)	85,857 (95.6)	17,176 (103.8)	143 (118.2)	7,974 (103.8)	13,305 (92.0)	7,950 (92.6)	25,258 (100.6)	7,649 (92.2)	2,401 (97.8)		
当初見通し	86,491 (100.7)	32,677 (99.3)	13,218 (105.0)	7,362 37,822 (100.6)	2,774 (100.4)	86,491 (100.7)	17,575 (103.2)	121 (84.6)	7,362 (92.3)	13,342 (100.3)	7,778 (97.8)	25,478 (100.9)	7,649 (100.0)	2,443 (101.7)		
見通し	86,470 (100.7)	33,076 (100.5)	12,838 (102.0)	7,769 37,546 (99.8)	3,010 (108.9)	86,470 (100.7)	17,438 (101.5)	143 (100.0)	7,769 (97.4)	11,992 (90.0)	8,095 (101.8)	24,930 (98.7)	7,745 (101.3)	2,648 (110.3)		

資料：平成15年～平成17年は林野庁「木材需給表」。
 注：1輸入材のうち、製材、合単板、チップ、ハルブ及びその他は、丸太換算材種である。
 2本表には薪炭材及びびいたけ原木を含まない。
 3輸入の構造用集成材は、需要のその他に含まれている。
 4 内は、工場残材及び解体材・廃材を利用した木材チップの需給量であり、製材用等に丸太換算して含まれているため外書きとした。
 5()内は、前年比(%)である。
 6. 数値の合計値は、四捨五入のため一致しないものがある。

木材需給見通しを下方修正

需給量は8647万㎡

林野庁・需給対策中央協

林野庁は、九月二十八日に木材需給対策中央協議会を開催し、今年三月に策定した平成十八年の木材需給見通しの見直しを行い、今年需給量について当初より、わずかではあるが、二万一千㎡下方修正し、前年比〇・七%増の八千六百四十七万㎡とする見通しを策定した。

需要面では、新設住宅着工数が前年を上回るものと見込まれることから、製材用とその他用は当初見通し値を引き上げ、わずかながら前年比増加となる。合板用も前年比増加であるが、供給事情から

当初見通し値よりは下がる。パルプ・チップ用については、当初見通し値を引き下げ、前年比は微減となる。

一方、供給面では、国産材、輸入材とも前年比は増加する。国産材は、当初見通し値よりは下がるが、前年比一・五%増加の一千七百四十三万八千㎡。輸入材は、当初見通し値よりは増加し、前年比〇・五%増加の六千九百三十二万一千㎡である。

輸入材では、丸太、チップは前年比減少だが、製材、合単板、パルプ、その他は前年比増加である。

安倍新内閣誕生

関係閣僚に期待

安倍新内閣が九月二十六日に誕生し、各閣僚の顔ぶれが決まった。木材産業界にとつて、なじみの深い人物もいるので、紹介する。

まず、農林水産大臣の松岡利勝氏(熊本3区・衆議院議員)。言うまでもなく、林政関係議員の代表格。林野庁の出身で、国会では農林水産委員長、党では林政基本問題小委員長。また、農林水産副大臣を歴任し、農林水産関係の経験は豊富。米国産牛肉の輸入再開、農産物の輸出促進、バイオマスエネルギーと、取り組む課題は多い。選挙でいろいろ苦労して、最近は見通しは楽観的である。

人柄がまろくなつたとの評判。次いで、環境大臣の若林正俊氏(長野選挙区・参議院議員)。民主党の地盤が固い選挙区で長年奮闘。こちらにも農林省の出身。木材産業にも理解がある。木材業界は、環境省とは焼却炉の規制問題などで何かとギクシャクしているが、新大臣の誕生で風通しが良くなることに期待。さらには、懸案の「環境税」について、松岡大臣とのコンビでの活躍を早くも期待する声が出ています。新聞記者の質問には「水源税」の失敗を例にして「環境税」は広い理解を得ることが重要と説く。一方、京都議定書の削減目標達成には前向きな発言も。

次いで、厚生労働大臣の柳澤伯夫氏(静岡3区・衆議院議員)。党税調会長として、税の専門家としての顔が有名だが、古くから、木材業界への理解が深い。閣僚経験も豊富で活躍に期待。

最後に、官房長官の塩崎恭久氏(愛媛1区・衆議院議員)。自民党にありながら党の垣根を越えて若手のリーダー的存在。木材業界との付き合いはまだ日が浅いが、父上の塩崎潤元衆議院議員は、かつての「林産議員懇話会」の幹部として活躍していた。官房長官は重責であり、一業界に目を向けている余裕はないであろうが、活躍を期待したい。

景況調査 = 全木協

18年9月分集計表 ()内は実数

〔流通部門〕 モニター数66 回答数49 回収率74%

当月の状況			
販売量	増加51% (25)	変わらず45% (22)	減少 4% (2)
仕入量	増加43% (21)	変わらず47% (23)	減少10% (5)
販売価格	上昇67% (32)	変わらず31% (15)	下降 2% (1)
仕入価格	上昇84% (41)	変わらず16% (8)	下降 0% (0)
来月の見通し			
販売量	増加31% (15)	変わらず61% (30)	減少 8% (4)
仕入量	増加23% (11)	変わらず69% (33)	減少 8% (4)
販売価格	上昇63% (31)	変わらず35% (17)	下降 2% (1)
仕入価格	上昇67% (33)	変わらず33% (16)	下降 0% (0)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米 材	70% (31)	25% (11)	5% (2)
南洋材	70% (28)	28% (11)	2% (1)
北洋材	78% (32)	20% (8)	2% (1)
国産材	32% (14)	68% (30)	0% (0)
建 材	64% (27)	34% (14)	2% (1)

乾燥材取引の頻度	増加 25% (13)	変わらず 75% (39)	減少 0% (0)
----------	----------------	------------------	---------------

〔製造部門〕 モニター数109 回答数83 回収率76%

当月の状況			
販売量	増加54% (43)	変わらず42% (34)	減少 4% (3)
仕入量	増加33% (27)	変わらず48% (39)	減少19% (15)
販売価格	上昇38% (30)	変わらず60% (48)	下降 2% (2)
仕入価格	上昇62% (49)	変わらず38% (30)	下降 0% (0)
来月の見通し			
販売量	増加44% (34)	変わらず50% (39)	減少 6% (5)
仕入量	増加35% (28)	変わらず55% (44)	減少10% (8)
販売価格	上昇29% (23)	変わらず71% (57)	下降 0% (0)
仕入価格	上昇51% (41)	変わらず44% (36)	下降 5% (4)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米 材	63% (26)	35% (14)	2% (1)
南洋材	59% (19)	41% (13)	0% (0)
北洋材	77% (27)	23% (8)	0% (0)
国産材	39% (27)	57% (39)	4% (3)

プレカットの動向			
受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内 62% (13)	1ヵ月 29% (6)	1ヵ月以上 9% (2)



全木連特別顧問

公平秀藏氏逝去

全木連特別顧問の公平秀藏氏が、九月十六日に逝去された。八十八

歳だった。

葬儀は、九月二十日に通夜が、二十一日に告別式が公平家と全木

連の合同葬として、さいたま市内

の斎場で執り行われた。喪主は長

男の陽雄氏。葬儀委員長は中村清

元会計検査院長、副委員長を庄司

橙太郎全木連会長、渡辺茂元全木

協連会長がとめた。

大正六年十一月一日、山形県生

まれ。宇都宮高等農林卒業、昭和

十五年農林省に入省。終戦を経て

長く林野庁に勤務。昭和四十六年

受章している。

から高知管林局長を務め、四十八年に退官。

その後、全木連に移り、全木連

常務理事、全木協連常務理事とな

る。専務理事、副会長を務め、昭

和六十三年に退任し、特別顧問に

推戴された。

この間、当時の各会長のもとで、

全木連の財政の立て直し、木材産

業界の不況対策、林産物貿易問題、

製材工場対策と再編整備などを指

導した。また、木退共、政治連盟

の設立をはじめ、現在ある林業・

木材関係団体の設立に深く関わっ

た。

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート!

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みにスピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階

TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595

URL <http://www.affcf.com/forestry>